

Saijodan

広島城北高等学校サッカー一部OB会

広島市東区戸坂城山町 1-3 広島城北学園内 〒732-0015

TEL 082-229-0111 FAX 082-229-0112



サッカー部顧問 岡重 諭

今年度から広島城北サッカー部の一員となりました、岡重諭（おかしげさとし）です。私はOBではありませんが、こうして最上段ファミリーのメンバーになれたことを本当にうれしく思っています。

簡単に自己紹介させていただきます。ご縁がありまして、昨年度から城北で教員をさせていただいています。その前は、市内の女子校で16年間勤務しておりました。42歳の時、結婚を機に長年の夢であった世界旅行に出るために退職し、妻と2人で1年半かけて約50カ国を旅して参りました。多くの出会いと多くの感動に満ちた最高の経験となりました。最後はブラジルワールドカップを観戦して帰国しました。世界の様々な生活や価値観に触れ、私の人生観も大きく変わりました。そんな経験を是非また生徒たちと分かち合いたいと思うようになりました。そんな折、広島城北に声をかけていただき、現在に至ります。

サッカーは5歳から近所のサッカークラブで始めました。その時からサッカーの魅力にとりつかれ、以来旅に出るまでの間、一時もサッカーをやめたいと思ったことはありません。実は旅中もケニアやブラジルなどあちこちで現地の人とボールを蹴ることができ、世界共通言語であるサッカーの力を実感しました。中学、高校、大学とサッカー中心の生活をずっと続けることができ、幸せな学生時代を送らせていただいたと心から思います。そこで出会った仲間や恩師の先生方は今でも私の大切な宝物です。今、グラウンドで必死で練習している選手たちを見ながら当時を思い出し、全力でプレーできる彼らをやましく思うとともに、ここ最上段が彼らにとって最高のホームグラウンドになればと願わずにはいられません。人生の大切なことはサッカーから学んだと思っています。いつも宮本監督がグラウンドで選手に語る言葉の一つ一つに共感しています。城北サッカー部の伝統と宮本監督の熱い想いが込められた言葉は、時に厳しく、時に温かく胸に響きます。今はそんな言葉から広島城北サッカー部のサッカーや最上段という場所の持つ意味、またそこに携わっておられる方々の熱い想いなど1つ1つ学ばせていただいています。私も早く本当の意味で最上

段スピリットを身につけ、選手たちに大切なことを伝えられるコーチになりたいと思います。

それと同時に、城北ではないところでサッカーを学んできた者として、新しい風を吹かせることも私の大切な役割ではないかと思っています。全国で監督をしている仲間も多くいますし、もともとサッカーを学び、城北サッカー部が全国大会に出場するための力になりたいと思います。

まだ顧問をさせていただいて間もないですが、スタッフの想いやOBの皆さんからの熱いご支援、また目の前の選手たちのがんばりに触れ、心から城北サッカー部という伝統あるこのチームの大ファンになりました。だからこそ少しでもチームのために貢献したい。そんな想いが日増しに強くなっています。まだまだできることは少ないですが、やれることすべてに全力で臨みます。今後ともよろしくお願いたします。

48回生 新見 光平

こんにちは、48回生の新見光平です。

私は今春香川大学法学部を卒業し、現在は来年の資格試験のために広島に戻り就職浪人をしています。そして広島に戻ってきたタイミングで宮本先生に声をかけていただき、7月から勉強の傍ら広島城北高校サッカー部の外部コーチをさせていただいています。最近では、現役のころよりもサッカーのことを考えてしまい、勉強しなければいけない事を忘れてしまうこともありすが、それ以上に最上段でボールを追いかける現役の選手たちの姿に元気をもらい、勉強もより一層頑張れている気がします。さらにコーチとして参加させてもらうことで、選手たちと向き合う先生方の思いや大変さ、そして支えてくださる方々の存在を知ることができ、自分も現役時代こうしてたくさんの方々に支えていただいていたのだと痛感しています。

次は今のチームの事について書きたいと思っています。今夏の選手権では、3年生が2人残りチームを引っ張ってくれていましたが、べつたり引かれた相手チームに対して得点を挙げる事ができず、惜しくも負けてしまいました。新チームでは選手権での敗戦の悔しさをバネに、城北らしい「粘り強い守備」「縦に早い攻撃」、さらに「サイド攻撃」からも得点が取れるチームになるため、まず「個の力」をつ

けようと様々な練習に取り組んでいます。その一つとして、トレーナーさんの協力のもと、「サッカーに必要な柔軟性を高めるためのストレッチ」「疲れにくい身体の使い方」「反応スピードを上げるトレーニング」「効果的な腕の動かし方」など、足元以外の技術を高めるトレーニングを取り入れ行っています。

新チームがスタートしたころは、「少し元気がないなあ」と感じていましたが、2年生を中心にチームを盛り上げるための話し合いを重ね、また中学3年生の加入で部員も増えたことで、モチベーションも上がってきています。年明けから始まる新人戦に向け、チーム一丸となって日々練習に励んでいます。そしてアドバンスリーグ・新人戦で良い結果を出せるよう、私自身も選手たちと「歳の近いコーチ」として、選手たちのサポートができればと思っています。

最後になりますが、こうして広島城北高校サッカー部に関わることができ、先生方・スタッフの方々に本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。限られた時間ではありますが、少しでもクラブの力になれるよう一生懸命頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いたします。

2018 初蹴りのお知らせ

初冬の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

毎年恒例の“初蹴り”を開催いたします。

『最上段』で懐かしい仲間たちとともに、笑顔で1年をスタートしましょう！

また、元旦には広島城北サッカー部 HP に、宮本監督の決意表明が掲載されます。ご期待ください！

<http://saijodan.com/>

日時 2018年1月3日(水) 11:00 集合

場所 広島城北学園“最上段グラウンド”

広島城北高校サッカー一部OB会
会長 吉川英司

トレーナー 讚井 陽美

OBの皆様、こんにちは。
広島城北高校サッカー部でトレーナーをさせていただいている、讚井陽美(さないはるみ)と申します。この度、宮本先生と岩井先生より、OB会報誌への執筆のお話をいただきました。大変光栄に思うとともに、先生方の優しさに感謝しております。

まず、私自身について少しだけお話しさせていただきます。私は高陽整形外科クリニックでトレーナーとしており、今年で勤めて13年になります。普段はリハビリを中心に患者様のサポートをさせていただいています。平成21年の4月からサッカー部のトレーナーとして帯同させていただいているので、早いもので来年には10年になります。たくさんの方々に出会い、多くの選手と一緒に過ごさせていただきました。

初めて試合に帯同させていただいたのは、4月19日の県総体予選の試合でした。まだ慣れない私に対して、宮本先生をはじめスタッフ、選手の皆様が温かく見守って下さり嬉しかったことを思い出します。

広島城北高校サッカー部でトレーナー活動を始めてからずっと変わらないと感じることは、とても元気で一生懸命何事にも取り組むことができる選手が多く、何より思いやりがあふれる選手が多いということです。

先輩と後輩の関係性もそうですが、相手の気持ちに寄り添い自分達で考えて行動するという姿勢はとてもすばらしいと思います。なかなか出来る事ではありません。

また、サッカー部で3年間過ごし卒業していったOBのみんなと夏休みや初蹴りなどで久しぶりにお会いしてお話しさせてもらったり、その3年間があったからこそどんなことにもあきらめず、ひたむきに前へ向かって人生を歩んでいける強さを得ることができているのだいつも感じています。

楽しい事や嬉しい事、時には辛く苦しい事を一緒に乗り越えていける仲間の結束力は、どの学校にも負けていないと思います。

広島城北高校サッカー部のキャッチフレーズでもある「Play Hard Together! Smile Hard Together!」「仲間と共に思いっきりサッカーを楽しもう、仲間と共に思いっきり笑おう」。

サッカーを通してとびっきりの笑顔でいられる人生をという思いがずっと引き継がれているのだと思います。そんな、すばらしいサッカー部でトレーナーとしてたずさわることができてい

る事を、大変光栄に感じています。
選手みんなやスタッフの皆様から元気をもらうことが、私の毎日の原動力になっています。皆様により良いサポートをしていけるよう日々精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、OBの皆様、いつも温かく見守って頂きありがとうございます。そしてトレーナーとして迎え入れて下さり、宮本先生をはじめスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。これからも選手と一緒に成長していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

52回生 川添 翔生

初めまして、52回生の川添翔生です。この度、OB会報誌を執筆させていただく機会をくださりありがとうございます。

私は現在、関西学院大学社会学部の1回生です。大学ではフットサルサークルに所属しております。週に1度ほどですが、ボールを追いかけたいです。大学ではサークルの同期や先輩、同じ学部の友人にも恵まれ、充実した大学生活を送っています。また、サークルでは先輩方から信頼をいただけて、様々なイベント事で重要な役割を任せていただいております。私が所属しているサークルは1回生から3回生までが所属しており、人数は約170人です。私は中学生の時、宮本先生より「ふにやぞう」と呼ばれていた程、すっかりしていたとは言えない中学生でした。

しかし先程述べたように、私は今、サークル内で重要な役割を任せていただくようになっていきました。私がなぜこのように任せていただけたようになったかと言いますと、広島城北という場所、そしてサッカー部というクラブに所属していたからだだと思います。このように現在の私はサッカー部で教わったことが基礎となり、今を過ごしています。これから私が広島城北サッカー部で何を学んだかについて書きたいと思

います。
私は中学生の時、試合に出ていると試合の第一声が「川添く！」という仲間や先生からの怒鳴り声だったことを覚えています。また先

ほども述べたように「ふにやぞう」とあだ名がつくほど頼りない存在だったと思います。しかし、学年があがるにつれて、やるべきことが増え、責任というものが自分へのしかかってくることによって、自分がやらなければならぬという責任感を感じるようになりました。例えば、先輩達が築き上げてきた実績、仲間からの期待。私はこのような責任感やプレッシャーが自分自身が最も成長した要因だと考えています。そしてもう一つ私が成長したと思う要因は私たちの代のキャプテンの森本大護の怪我だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

います。これは私というより私たちの代の全員を成長させた要因だと思

※ご家族のみなさんへ：ご本人が、ご入学・ご就職・ご結婚などで不在の場合は、お手数ですが、ご本人までご連絡ください。